

ホープス
HOPES ~希望の声 届けます~



母と子の
服を貸し借り 節約 節約 節約
気が付けば
背だけ同じになった夏

産司優花さん
(伊丹沢)

産司麻希さん
(伊丹沢)

「娘はすぐに出来たんです。時間がかかったのは私の方です」と話す麻希さん。今年の夏、娘の優花さんと親子で応募した俳句が福島県主催「十七字のふれあい事業」で見事、入賞しました。小学校高学年から親子で服の貸し借りをしている仲良し親子の日常を書いたそうです。「中学生になったら、頼りになる存在になってきました。少し寂しい気もしますが…」と娘の成長を感じる母と「お母さんは一番大切な存在です」と照れながら話す娘。目を合わせて笑い合う姿に親子の絆が見えました。

つくってたべよう



いろいろな食べ方がありますが、「砂糖しょう油餅」をご紹介します♪

「揚げ凍み餅」

(材料)
・凍み餅 …… 適量
・しょう油 …… 適量
・砂糖 …… 適量

(作り方)

- ①凍み餅を水で戻す。※1時間以上
- ②水気をよくふき取る。
- ③中温の油でゆっくりじっくり揚げる。
- ④お好みで砂糖しょう油にくぐらせて食べる。

☆凍み餅…気温が氷点下になる日が続く寒冷地ならではの伝統保存食。雪深い土地の間部で食べられている。

協力：飯館村食を考える会

自立した復興へ

平成24年1月に帰村宣言を出した川内村の取り組みから、村復興への活路を。

川内村の現状と課題

村に住み続ける誇りや意義をどう取り戻していくか。

➔補償されることは重要だが、それ以上に生きる意欲や目標を見失わないこと。

「戻る」「戻らない」の対立構図を生み出さない。

➔戻るための新たな制度設計の必要性。帰還に関わらず生活再建



川内村に学ぶ
復興への道

▲「復興とは生きがい、誇りを取り戻すこと」と話す遠藤村長

村では2月18日、村役場飯野出張所において、遠藤雄幸川内村長を講師に招き「第4回飯館村と生きるまでいなりレトリック」を開催しました。講演では、遠藤村長から川内村の震災当時の状況から、これまでの復興状況と帰村宣言後の新たな課題について述べられました。また、遠藤村長は「原発災害は時間が経つほどに複雑化する。住民と行政の信頼関係を土台にし、自分達の手で復興を進めるしかないのではないか」と復興への思いを話しました。

こころの
ぽけっと

プラス思考へ

先日、ある方からこんな話を聞かされました。
「付き合っていて、ほっとしたり安心出来るタイプの人は何事にもプラス思考で考えることのできる人なんですよね」と「どんなに有能な人でもマイナス思考が、基本の人とは付き合っていて、うまくいって疲れるし、警戒心が取れないんですよ」
その話を聞いて、私は以前、職員への年頭訓辞での話を思い出していました。

靴を履く習慣のない未開地へセールスマンが派遣された折、ある一人のセールスマンは「誰も靴を履いていません。到底売れる見込みはありません」との報告。もう一人のセールスマンからは「誰も靴をはいていません。いくらでも売れますから早く送って下さい」との報告があった…こんな内容のものでした。職員として何事にも前向きに、プラス思考で仕事に当たって欲しいという思いがあつたこの話をしたのでした。

生きていく間には、必ずと言ってよい程逆境にあつたりします。その時、プラス思考に考えられるかマイナス思考にとらえるかによって、人生大きく変わってくるような気がしてなりません。生きていく上で大切なことは困難にあつて苦しい時、「困った、困った」だけでなく、難しいことですが「感謝する心」を合わせながら事に当たると、意外と道が開けるといふこともあるかもしれません。
今、生きていくと…感謝
今、つまみものを食べて…感謝
今、歩いていくと…感謝
今、手足のたくさん指が動いていると…感謝
こんな風に思つて生活していると前が、パツと明るくなって、先が見えてくることあるといふことではないでしょうか。

私など、中々そうは出来ない人間ですが、この方の「プラス思考が大切」の話を聞きながら自分の人生の捉え方をさらに「プラス思考に変えていく良い機会にしていききたいものと強く思つた次第です。

平成27年2月17日 飯館村長 菅野 典雄

乳幼児健診今後の日程

1歳6か月児健診
3月19日(木)
受付時間：午後1時から
場 所：いいたて子育て支援センターすくすく



村保健師 渡辺 美江子さん

「乳幼児健診は必ず受けるようにしましょう！お母さん同士の情報交流の場にもなりますよ♪」

乳幼児健診について詳しくは
健康福祉課健康係（飯野出張所）
☎024-562-4224 まで



▲2月19日の健診では、11組の親子が受診しました

乳幼児健診 お忘れなく

村では、昨年の12月に開所したいいたて子育て支援センターすくすく（福島市）での乳幼児健診を行っています。
健診は福島市に避難している4か月児、10か月児、1歳6か月児、3歳5か月児を対象にしており、対象児には、健診案内を郵送しています。内容を確認の上、受診しましょう。
なお、福島市以外に避難されている方も受診可能ですので、村健康福祉課までご連絡ください。